

カンファレンス 2019 リサーチプロジェクト・セッション

ヘルスケアビジネス研究会報告

テーマ：「日本社会に求められるヘルスケアビジネスとは？」

日程：2019年10月20日（日）9:00-10:30

場所：法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 S403 教室

【報告会レポート】

本年度、新たに発足したヘルスケアビジネス研究会は、真野俊樹先生をリーダーに日本のヘルスケアビジネスの方向性を探求する研究会である。今回のリサーチプロジェクト・セッションでは、リーダーと企画運営メンバーから日本のヘルスケアビジネスについての現状や課題を踏まえた研究内容などについて発表を行い参加者と討議を行った。

講演1 中央大学大学院 戦略経営研究科 教授 真野 俊樹 氏

『ヘルスケアビジネス、今後の展望』



本日のヘルスケアビジネス研究報告会の開催に際して、真野先生から日本のヘルスケアビジネスの現状と課題について解説頂いた。また、現代社会に求められる患者の立場に立った医療について、マーケティング

の視点から国民との価値共創について言及した。今後は公的データベースの情報（レセプトデータや電子カルテの情報など）と様々なヘルスケア情報を活用した価値共創がヘルスケアビジネスに求められる。情報を統合、活用することで顧客の行動変容を支援し価値共創することができる。ヘルスケアビジネスにおいても他のビジネス同様に、患者満足やPX（ペイシエント・エクスペリエンス）を目指すことが必要であると解説頂いた。会場から経産省の施策やヘルスケアビジネスの収益性など多くの質問があり、ヘルスケアビジネスについての関心の高さが伺えた。

講演2 中央大学大学院 戦略経営研究科 博士後期課程 香川 勇介 氏

『ヘルスケアビジネスにおけるコミュニケーションの課題』



香川氏は、日本の超高齢社会の現状を解説頂くとともに、高齢化や生活スタイルを

要因とする生活習慣病は行動変容による予防効果を期待することができること、更に、一部のがんは予防可能であるが、日本ではがん検診の受診率が低い現状について問題提起を頂いた。国民や患者とのコミュニケーションが問題解消につながるとして、欧米で研究が進んでいる保健行動理論や認知行動療法について香川氏の研究内容を紹介頂いた。コミュニケーションの重要性を再認識する機会となった。

講演3 中央大学大学院 戦略経営研究科 博士後期課程 杉本 ゆかり 氏

『慢性疾患の患者特性とヘルスケアビジネスへの応用可能性の検討』



9月に中央大学大学院の博士課程を修了した杉本氏から、診療所の外来診療におけ

る慢性疾患治療の重要性について研究内容から解説を頂いた。医療費の削減には、予防可能な生活習慣病の発症予防や重症化予防が重要であるとして、研究で取り上げた循環器疾患、内分泌疾患、脳血管疾患、整形外科疾患について患者特性の違いから、望まれる患者対応について言及頂いた。今後の課題として、SNSや各種レビューサイトなどの情報の評価、地域特性や商圏についての検討の重要性を述べられた。

講演4 多摩大学 医療・介護ソリューション研究所 フェロー 佐藤 幸夫

『ヘルスケアビジネスに求められる企業の社会的責任と価値共創』



ヘルスケアビジネスに求められる価値共創について、S-D ロジックから派生したサービス・エコシステムとドラッカーのマネジメント・スコアカードという2つの視点を紹介した。サービス・エコシステム、マネジメント・スコアカードともに制度や社会との関係性を認識する効果的な視点であり、顧客や社会との価値共創を支援するた

めに重要な視点である。従来の企業と顧客間の価値共創という視点から、社会からの制約や社会に及ぼすインパクト、顧客の内心への関与は、企業が認識すべき要素である。サービス・エコシステムが求める文脈

価値、社会環境や制度、マネジメント・スコアカードが求める多元社会における自由で機能する社会の構築という視点を意識することは、ヘルスケアビジネスの視座として有効であると考えられる。

【報告会を終えて】

本日の研究会は、早朝の開催にも関わらず、20名を超える参加者と熱気ある研究会が展開された。真野先生から日本のヘルスケアビジネスの現状や課題について問題提起を頂いた上でヘルスケアビジネス研究会メンバーの研究概要について紹介した。少子高齢化や医療費の増加は日本社会の大きな課題とともにヘルスケアビジネスにより解消が期待される市場である。本研究会の研究を通じてヘルスケアビジネスについての関心が高まり、社会問題解消に向け一石を投じる機会となることを期待する。今後の研究報告会でも、様々な事例を取り上げ、日本が目指すヘルスケアビジネスの方向性を探るための議論の場としたい。

本研究会では、引き続きヘルスケアビジネスについて、新たな知見の共有や討議を通じて、日本のヘルスケアビジネス推進に寄与したいと考えている。ヘルスケアビジネスに興味を持つ多くの方々の参加をお待ちしております。

(文責：佐藤幸夫)